

30272 ✓

教科書文庫

3
810
41-1887
20003
01464

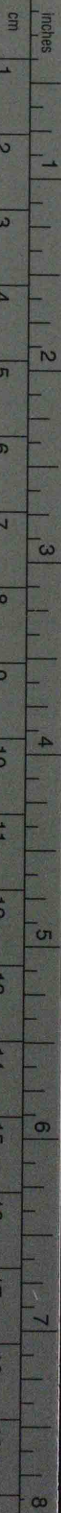
M20
1887

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

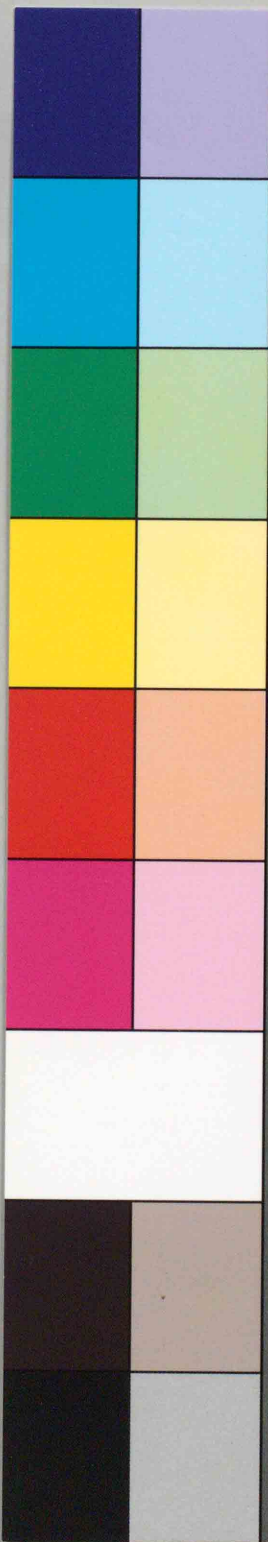
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



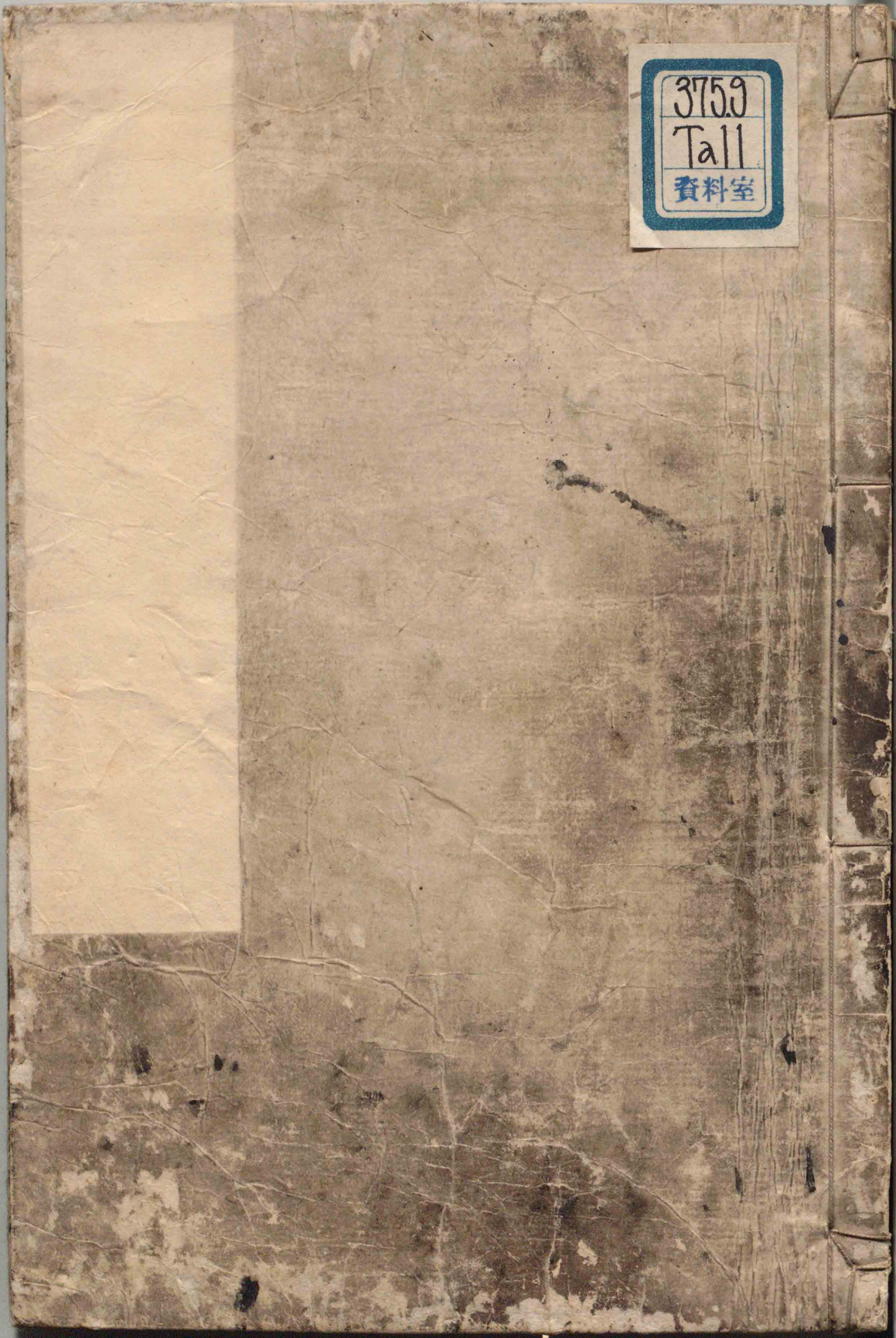
Kodak Color Control Patches

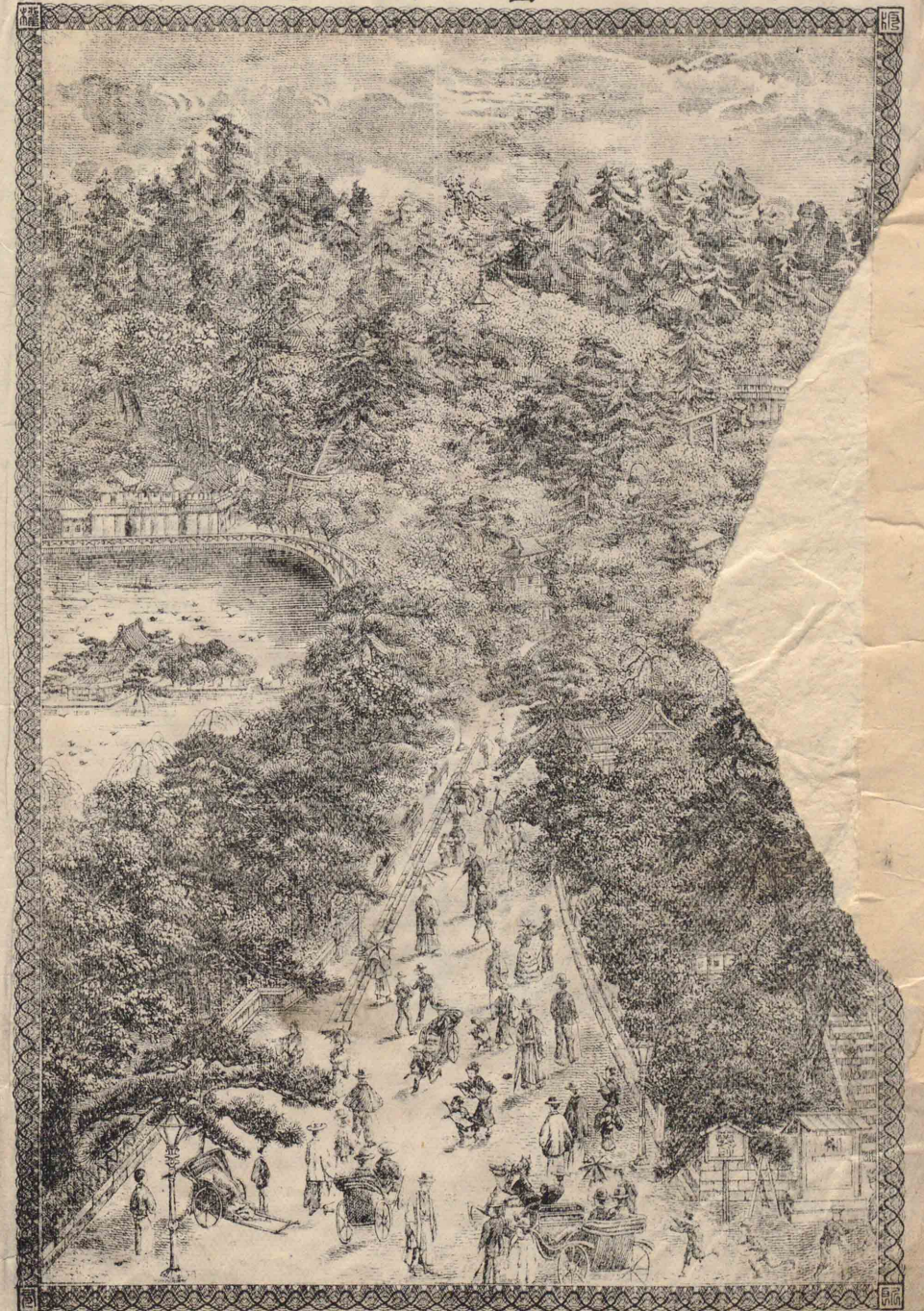
© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



3759
Tall
資料室





東京圖書社出版印行

東京圖書社

普通讀本四編上

第一課 書體。

高橋熊太郎 編

字義。書體。行書。草書。便利。楷書。書籍。試科。
一郎ハ白紙ニ大字ヲ書ケリ。汝等一郎ノ
書キタル字ヲ讀ミ得ルヤ。其字義ヲ辨ヘ
得ルヤ。此書體ヲ何ト云フヤ。此書體ハ
行書ナリ。汝等ハ行書ヲ書キ得ルヤ。汝
等モ一郎ノ如ク、行書ヲ能ク書クコトヲ學

普通讀本

四編上

東京圖書社

二郎モ亦一郎ト同ジ
 字ヲ書ケリ。此書體
 ハ一郎ノ書キタルモ
 ノト同ジキカ。不異
 ナレリ。此書體ヲ何
 ト云フヤ。此書體ヲ
 草書ト云ヘリ。草書
 ト行書トハ、日用ノ書



普通書ノ四編上
 集英堂藏版

類ニ多ク書クモノナ
 リ。草書ハ其初メ早
 書キノ便利ヲ考ヘテ、
 設ケシ所ノ書體ナリ。
 三郎モ亦同ジ字ヲ書ケリ。此書體ハ楷書
 ナリ。楷書モ亦常ニ多ク用フルモノナリ。
 楷書ハ書籍等ニ多ク用フル字ナリ。汝
 等ハ此三體ノ中ニテ、何ヲ最モ好メリヤ。
 習字科ニテ今何ヲ習ヘリヤ。石盤ヲ出シ



此書體ハ
 西曆十九年十月

普通書ノ四編上
 集英堂藏版

テ、試ニ此三體ノ字ヲ
書クベシ。

第二課 螢ノ話。

浴。晚餐。喫。苦熱。郊外。

浴。漫。涼風。靡。譬。螢。凝。

露。拂。團扇。撲。聚。

龜松ハ浴ミモ終リ、晚餐モ喫シタレバ、晝間
ノ苦熱ヲ忘レント、父ニ從ヒテ郊外ニ出テ、
清流ニ浴ヒ、板橋ヲ渡リテ、漫ニ歩ムニ、時方



忠孝者人倫

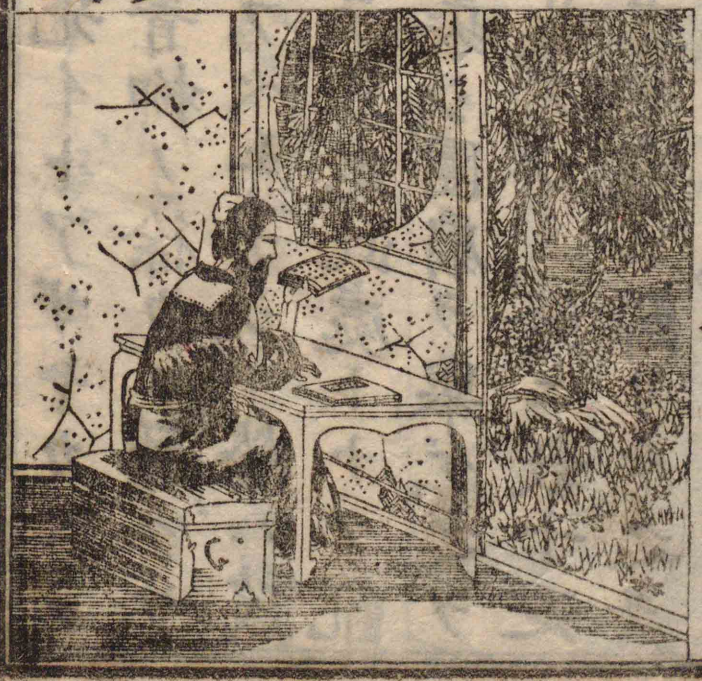
之本也 三郎書

ニ一天雲ナク、夕月ノ光イトアザヤカニシ
テ、涼風膚ニ適シ、岸ノ青柳ノ徐カニ靡クサ
マナド、其快キコト譬フベキナシ。 螢ハ茂
草ヲ離レ、凝露ヲ拂ヒテ、其處此處トナク亂
レ飛ベバ、龜松ハ興ニ乘ジ、團扇ヲ舉ゲ、之ヲ
撲チ捕ヘテ、籠ノ中ニ收メツ、終ニ數十疋
ヲ聚メ得シカバ、大ニ喜ビ、家ニ歸リテ之ヲ
弄ビ、復タ他事ナク遊ビ居タリ。

第三課 前課ノ續

車胤。囊。博學。吏部尚書。一層。忍耐。勤學。

此時父は龜松よ向て云ふやう、汝の支那の車胤と云ひし人の話を聞けりや。車胤は幼少壯時より學問を好めども、家貧くして油を買ふ錢なかりぬをば、夏の夜ふの數多の螢を薄絹の囊に盛



り、其光を採りて書を読みたり。斯く勉強して怠らざりしや、遂に博學の人となりて、其名世に聞え、後よは吏部尚書といへる、重き官よ登りたるなり。此故事よりして、學問を勉強するを、螢を聚むとをいふなり。汝は自ら思へ、晝の教師ありて、學校ふて充分に學び、夜の油有りて、自由よ火を燈すことを得、誠に大なる幸福ならんや。常に車胤の苦學を心に記し、一層忍耐の力を加

へ以て勤學せずバあるべからず。

第四課 子ニ教フル道。

孟軻。東隣。覩。欲。啖。答。悔。乃。墓所。葬送。遷。商賈。街賣。俎豆。陳。揖讓。擬。安堵。

孟軻ハ支那ノ賢人ナリ。幼カリシ時、東隣ノ家ニテ猪ヲ殺ス者アリ。軻之ヲ覩テ、何ニ爲ント欲スルゾト問フニ、母戲レニ、是レ將ニ汝ニ啖ハシメントスルナリト答フ。母既ニシテ悔イテ謂ヘラク、余過テリ、若シ

之ヲ啖ハシメザルトキハ、是レ子ニ不信ヲ教フルナリト、乃チ猪肉ヲ買ヒテ之ヲ食ハシメタリ。初メ軻ノ家ハ、墓所ニ近カリシカバ、軻常ニ墓間葬送ノ戲レヲノミ事トセリ。母之ヲ覩テ謂ヘラク、此地ハ子ヲ居クベキ所ニアラズト、乃チ去リテ市ノ傍ニ遷ルニ、軻マタ、商賈ノ物ヲ街賣スルノ狀ヲ爲シテ遊戯セリ。母マタ、此處子ヲ育ツベカラズトテ、遂ニ家ヲ學校ノ傍ニ遷シ住ミケ

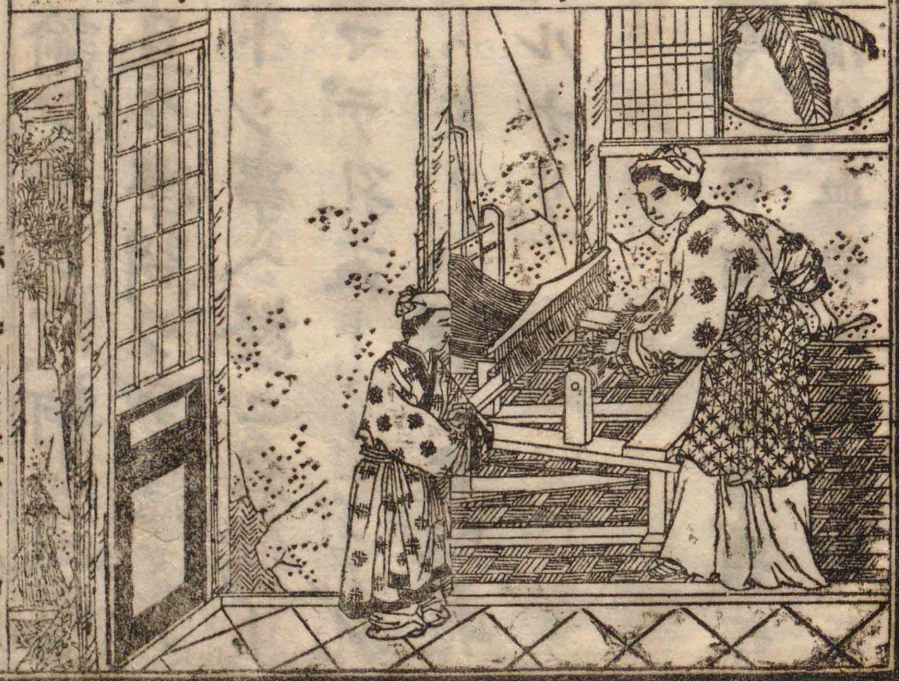
ルニ、軻乃チ俎豆ヲ陳子、揖讓進退ノ禮ヲ擬シテ遊トセシカバ、母始メテ安堵シ、此地真ニ子ヲ育ツベキナリトテ、遂ニ之ニ居ヲ定メヌ。

第五課 前課ノ續

幾何。中道。廢。俱。旦夕。子思。名儒。孔孟。教訓。

軻長ジテ後、他方ニ行キ勤學セシガ、猶ホ未熟ナルニ家ニ歸レリ。其時母ハ機ヲ織リテアリケルガ、軻ノ歸リタルヲ見テ、汝ノ學

問ハ幾何カ進ミタルト問フニ、未ダ長ジタル所ナシト答フ。母聞キモ敢ヘズ、刀ヲ持チ來リテ、其機ヲ中ヨリ斷チ切り、汝ノ中道ニシテ學問ヲ廢スルハ、猶ホ我が此機ヲ斷ツガ如シ、遂ニ俱ニ無



用ノ物トナルベシト諭シケレバ、軻大ニ恐
レテ再ビ志ヲ勵マシ、旦夕學問シテ息マズ
子思トイヒシ人ニ師トシ事へ終ニ名儒ト
ハナレリ。今ニ至ルマデ孔孟トイヒテ、孔
子ニ次ギテ稱セララル、モノハ實ニ其賢母
ノ教訓ヲ守リシニ由ルナリ。

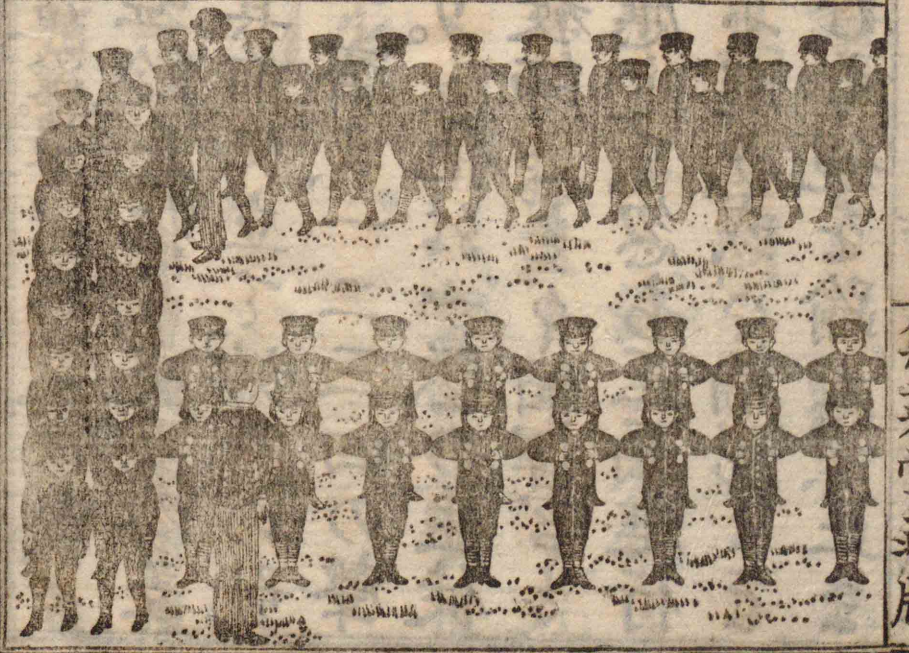
第六課 體操。

啞鈴。把。交互。參差。號令。一齊。演習。從事。指揮
官。圓陣。規。踰。矩。整肅。消化。血液。循環。營。增益。

姿容。矯正。心神。爽快。活潑。優遊。粗暴。疲勞。

一隊の生徒各、兩手に啞鈴を把り、交互參差
として列立す。教師其前に立て、始めの號
令を發せれば、生徒は一齊よ、一二三四の聲
を合して、演習に就けり。他は一隊の生徒
は、隊列運動に従事し、教師こそが指揮官と
なれり。指揮の聲に應じて、忽ち正面進行
に變じ、忽ち側面進行に遷り、或ハ輪形とな
り、或は圓陣とあり、進むも規を踰えず、止ま

るも矩を離さば一進
 一退の自在なる一動
 一止の整肅なる勇ま
 しくも亦感むべし。
 こは古き學校に於て
 生徒に體操を授くる
 の有様なり。體操は
 飲食の消化を善くし
 血液の循環を進め、



に身體を強健を増益し、其姿容を矯正するの
 みならず、又心神を爽快にし、氣風を活潑なら
 しむるも能ふれば、宜しく勉めて之を行ふべ
 し。常に飽食して優遊し、又は日夜机に倚り
 て、讀書のみを事とし、運動をなさざれば、遂に
 疾を醸すに至るも能なり。然れども運動長
 きに過ぎ、或は粗暴の所業を以てせむべからず。
 若し斯の如くして、身體を疲勞すること甚
 どしきときは、却て又害を招くも能なり。

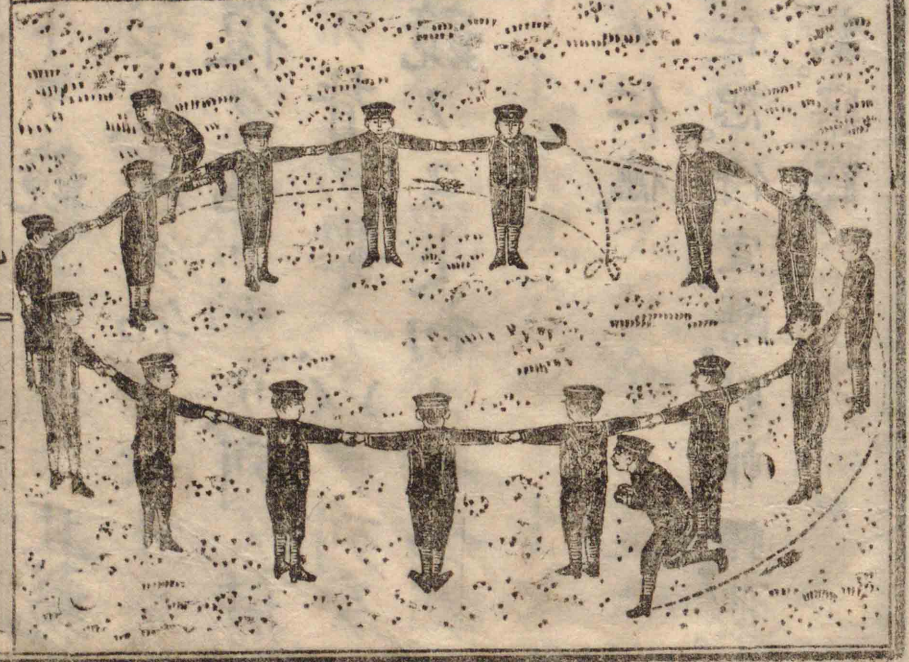
普通讀本 四卷上 八

第七課 運動ノ方。

疾走。獨樂。轉。危險。斟酌。擇。鬼。連。周圍。擊。空位。競。孰。負。

運動ヲナスニモ種々ノ方アリ、或ハ散歩シ、或ハ疾走シ、又馬ニ乘リ、水ヲ泳ギ、紙鳶ヲ揚ゲ、羽子ヲ打ち、獨樂ヲ廻ハシ、輪ヲ轉バス等、一様ナラス。然レモ運動ノ危險ナルモノハ、適度ニ斟酌シ、安全ニシテ愉快ナルヲ擇ブベシ。爰ニ圖セルハ、鬼事ノ狀ナリ。兒

童十六人、手ヲ連子テ圓形ニ立テリ。鬼ハ一人列ヨリ外ヅレテ圓形ノ周圍ヲ疾走シ、手ヲ以テ先ヅ列中一人ノ背ヲ擊ツ。擊タレタル一人ハ、直チニ列ヲ脱シ、鬼ニ背キテ走り、早ク圓列ヲ一周



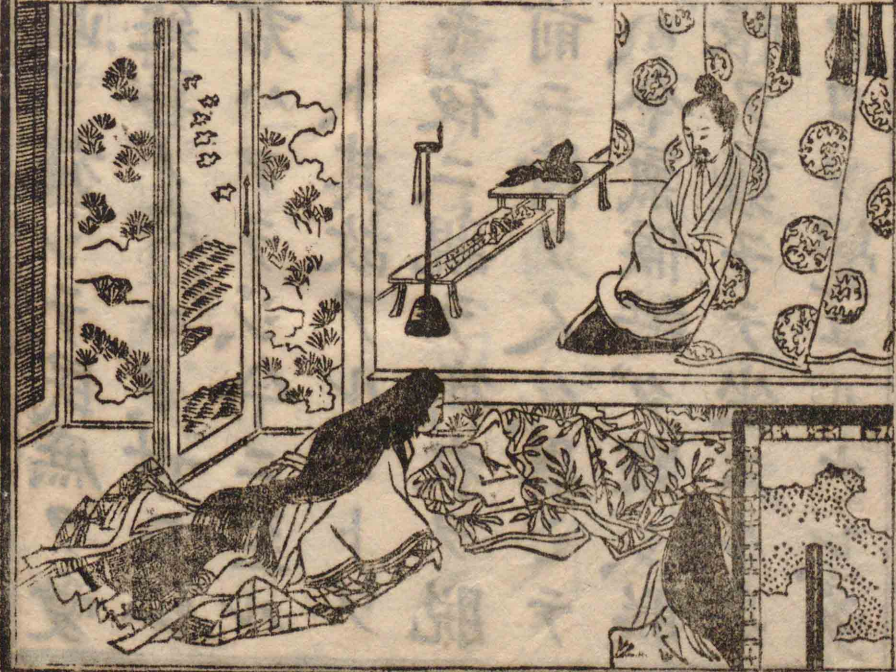
シテ、空位ニ入ランコトヲ競フナリ。其孰
レガ勝ンカ、孰レガ負ンカ、未ダ知ルベカラ
ズ。負ケタルモノハ、復タ鬼トナリ、列ノ周
圍ヲ疾走シ、列中一人ノ背ヲ撃チ、以テ列ヲ
去ラシメ、再ビ空位ヲ競フコト、初メノ如ク
スルナリ。

第八課 延喜帝ノ仁徳。

施。民庶。愛撫。延喜帝。仁恕。侍。宣。酷。朕。帷帳。襲。
凍。豈。溫。畏。嘗。登朝。感戴。寤寐。

古ヨリ代々ノ天皇、徳政ヲ施シテ、民庶ヲ愛
撫シタマヘル中ニモ、延喜ノ帝ホド、世ニ仁
恕ノ深クマシマセシ君ハアラジ、今ニ至ル
マデ、聖帝ト稱へ奉ルコト、其故アルコトゾ
カシ。帝或ル冬ノ寒キ夜ニ、親ラ御衣ヲ脱
ガセタマヒケレバ、御前ニ侍フ人々、異ニテ
問ヒ奉ルニ、宣マフニハ、今氣候酷ダ寒シ、朕
ガ如キ、九重ノ内ニ帷帳ヲ襲子テ坐スル身
サへ、猶ホイト堪へ難クコソ覺ユルナレ、多

普通詩本 四編
 カル天ノ下ノ貧シキ
 者ノ中ニハ、必ズ凍工
 タル者モ少カラジ、朕
 豈ニ獨リ重子着テ、身
 ヲ温ムルニ忍ビンヤ
 ト、畏コクモ其艱苦ヲ
 親シク嘗ミタマヘリ。
 ・天子ハ四海ノ君ニ
 シテ、萬民ノ父母ナリ

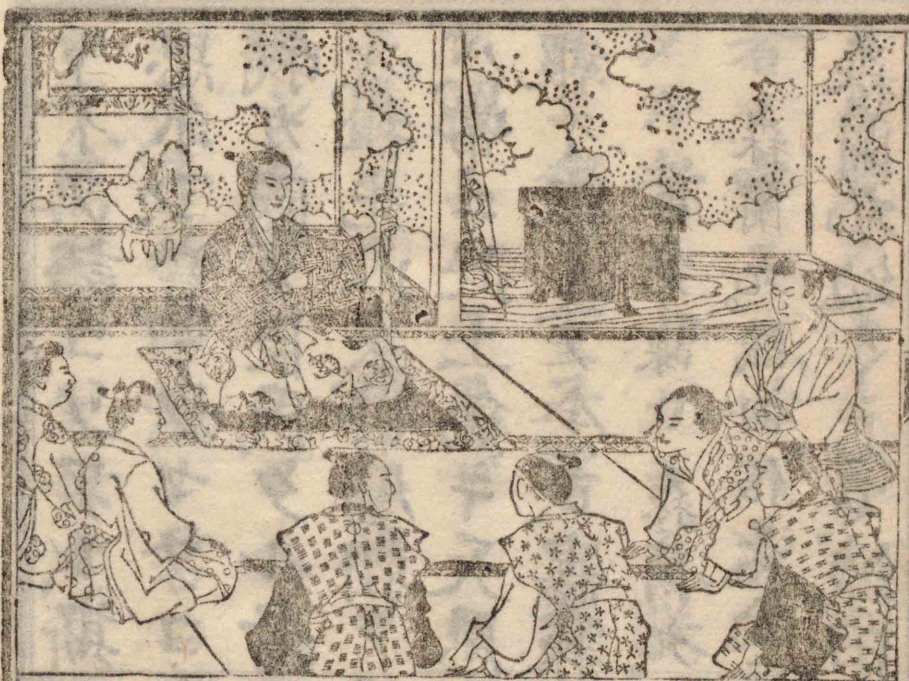


トイフ語コソアレ、斯ク親シク民ノ艱苦ヲ
 思ホシ、嘗ミタマフコトコソ有ガタケレ。
 我が國ノ臣民タル者ハ、唯我が身ノミナラ
 ズ、祖先以來、皆歷朝ノ恩澤ニ浴セシ者ナレ
 バ、常ニ此上無キ天恩ヲ感戴シテ、其萬一二
 報イ奉ルノ念ヲ、寤寐ニモ忘ルベカラズ。

第九課 森蘭丸

森蘭丸。織田信長。公。厠。佩刀。執。鐔。觀。記憶。欺。嘉。
 森蘭丸幼くして、織田信長に近侍せり。公





一日廁に上る、蘭丸を
して其佩刀を執りて、
外は待としむ。蘭丸
公の出でざる間に、其
刀鐔の模様、千葉菊
の數を算へ盡せり。
信長之を觀ひ知れど
も言えぬ。數日を経
て左右に向ひ、漫し其

刀鐔を指して、能く此千葉菊の數を言ひ中
つる者あらば、之を與ふべしと言ひたり。
衆皆爭ひて其數を言ふ、獨り蘭丸の黙し
て言はず。公蘭丸を目して曰く、汝何ぞ言
えざる。蘭丸對て曰く、臣嘗て其數を算へ
て能く記憶せり、今若し知らざる者、汝如く
して之を言はば、即ち君を欺きて其賜を貪
るふり、臣甚ど之を耻づと。信長其直實な
るを嘉して、其刀を賜ふと云ふ。

第十課 學問ノ心得。

詩歌。文章。畢竟一藝。簡易。往復。帳簿。歷史。理科。沿革。治亂。興廢。講究。缺。

學問トハ唯ムツカシキ字ヲ知リ、解シ難キ文ヲ讀ミ、若クハ詩歌ヲ巧ニシ、文章ヲ善クスルノミヲ謂フニアラズ。此等ノ事モ文學ノ一科ニシテ、固ヨリ無用ノ事ニハアラザレドモ、畢竟不急ノ一藝タルニ過ギザレバ、此等ノ學ハ後ニシテ、實用ノ學ヲ先ニス

ベシ。實用ノ學トハ先ヅ簡易ナルモノニテハ、往復ノ文書、帳簿ノ書方、珠算筆算ノ法、度量衡ノ名稱、用方等ヲ心得、尚ホ進ンデハ地理、歷史、及ビ理科ノ學ヲ學ブベシ。地理ハ、日本及ビ世界萬國ノ風土、形勢、人情、物産等ヲ記セルモノニシテ、歷史ハ古今ノ沿革、治亂、興廢等ヲ載スルモノナリ。又理科ハ天地萬物ノ理ヲ講究シテ、之ヲ實事ニ施スノ學ナレバ、何レモ日常缺クベカラザル者

ナリ、殊ニ修身ニ至テハ、身ヲ立テ人ニ交リ、
 四民齊シク世ヲ渡ルベキ道ヲ説キタルモ
 ノナレバ、最モ深ク意ヲ留メザルベカラズ。
 少年ノ時學問スルハ、農工商ノ別ナク、生
 長ノ後、父祖ノ家ヲ續ギテ、夫々ノ業ヲ執リ、
 各良民タルノ本分ヲ盡スベキ爲メナレバ、
 能ク其心得ヲ以テ勉ムベキナリ。

第十一課 寒暖計。

測。寒暖計。玻璃管。水銀。劃。遭。膨脹。收縮。華氏。

沸騰。

夏ハ暑ク冬ハ寒シ、春ハ暖ニシテ秋ハ冷ナ
 リ。此四時ノ間、溫度ノ變化ヲ測ル器ヲ寒
 暖計ト云フ。寒暖計ハ、細キ玻璃管ノ中ニ
 水銀ヲ盛り、外ニ度目ヲ劃ミタルモノナリ。
 凡ソ物ハ熱ニ遭ヘ
 バ膨脹シ、冷ユレバ收
 縮ス。管中ノ水銀モ
 此理ニ背カズ、四季ノ



氣候ニツレテ脹縮シ、脹スレバ昇リ、縮スレバ降り、以テ寒暖ノ度ヲ示スナリ。寒暖計ニハ三種ノ別アレド、我が國ニテ通常用フルモノハ、華氏ノ制ニシテ、茲ニ圖セルモノ即チ是ナリ。此寒暖計ニテハ、三十二度ニ降レバ水凍リ、二百十二度ニ昇レバ、沸騰シテ蒸氣トナルモノト定メタリ。

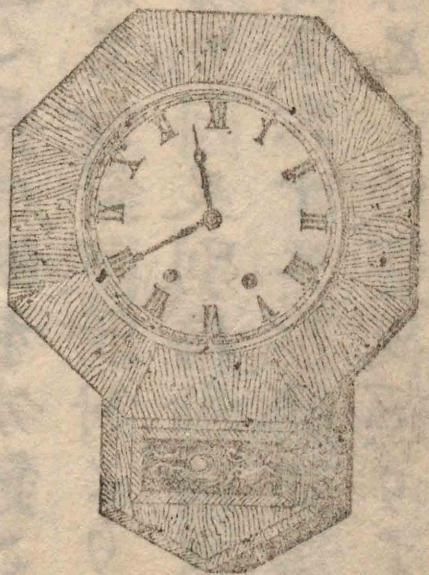
第十二課 時計。

旋。秒。蔓々。錚然。期。官衙。率。裝具。發條。逸次。懷。

中。都。瑞。西。

茲の時計此針は、何時を指す也。短き針をXIとXIIと孔間にありて、長き針はVIIIの處にあり、即ち十一時四十分あり。短き針を時計針と云ひて、運ること遅く、長き針を分針と云ひて、旋ること疾し、即ち分針は、時計より十二倍速く運行するなり。又別に秒時計を示す針あり、此ハ一分時を六十たび轉ぐるものなり。時計は蔓々として、晝夜運りて

息まば、毎時に必ず鐘
 然自ら鳴りて時を告
 ぐ。人はこまにより
 て起き、これより
 寝ね、以て朝食に就く
 べく、以て晝飯晚餐の期を定むべし。其他
 學校、官衙、昇降、死時間より、萬事の期會に至
 るまで、率ね、これをより定めざるものな
 し。誠に日用、缺く可らざるの要具あり。抑



も時計は、何故に自ら鳴りて息まざるや。
 此は内に種々の装具ありて然るなり。先
 づ鐵の發條あり、自ら運動を起して、一の齒
 輪に傳へ、此齒輪又遞次は他の多くの齒輪
 小傳へて、其運動を適宜にし、遂は指針を動
 かし、又鐘を打ち鳴らすにも至るあり。時
 計のハ柱時計、懐中時計等あり、懐中時計は
 金側或は銀側の製多く、又ニツケルを以て
 造りたるものあり。都て時計ハ、歐洲の瑞

西國より製しよるものを最も良しと云へり。

第十三課 アルフレッド大王ノ蠟燭。

光陰。俟。等閑。夢。隙。惜。無量。英吉利。費。書冊。機務。繁忙。釋。彩色。

光陰ハ人ヲ俟タズ、等閑ニ打過レバ、夢ノ間ニ老イ去リテ、何事モ成シ得難シ。サレバ幼稚ノ時ヨリ、少シノ隙ヲモ惜ミ、勉メテモ尚ホ勉メザルベケンヤ。寸陰ハ小ナレド

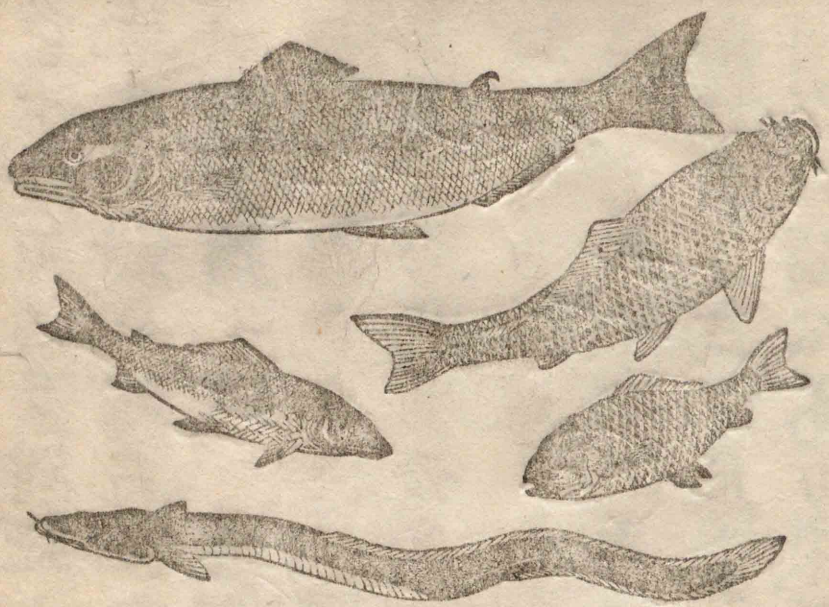
コレヲ積マバ無量ノ時トナルベシ、賢トナリ愚トナルモ、皆唯時ヲ惜ムト惜マザルトニアリ。昔英吉利ノアルフレッド大王ト稱セシ君ハ、光陰ヲ重ズルコト金玉ノ如ク、一刻片時モ徒ニ費スコトナシ。深ク學ヲ嗜ミ、常ニ書冊ヲ懷ニシ、國家多難ノ際、機務繁忙ノ時ニ當リテモ、少シク間アラバ手ニ巻ヲ釋テズ、故ニ當時有名ノ學者モ、王ノ右ニ出ヅルモノナカリシト云フ。王嘗テ晝夜

ヲ三分シ、一ヲ政務ノ時トシ、一ヲ勉學ノ時トシ、一ヲ休息睡眠ノ時トセリ。其頃時計未ダアラザリケレバ、蠟燭ニ彩色ヲ施シ、其燃工盡キタルヲ見テ、時ヲ測リシト云フ。

第十四課 鯉、鮒。

河。鮒。鮒。鰻。鬚。鱗。壽。達。上。鰻。淀川。上野。利根川。鯉。愛玩。扁湖。近江。琵琶湖。源五郎鮒。

河湖ニ産スル魚ハ、其種類々アレド、鯉、鮒、鮒、鮒、鰻等ヲ最トス。鯉ハ體肥大ニシテ、口邊



二四鬚ヲ具ヘ、頭尾ノ一道ニ三十六鱗アリ。性活潑ニシテ強ク、其壽二百年ニ達スルコトアリ。其肉ハ味美ニシテ、上鰻ニ供スベシ。山城ノ淀川、上野ノ利根川ノ産最モ世ニ名アリ。此種ノ赤

色ナルモノヲ緋鯉トイフ、庭池ニ養ヒテ愛
玩ス。鮒ハ鯉ニ比スレバ、扁濶ニシテ小久
口邊ニ鬚ナシ。味鯉ニ及バザレ氏亦食用
ニ供スベシ。近江琵琶湖ノ産ヲ上トス、俗
ニ源五郎鮒ト云フ。

第十五課 鮒、鮎、鰻

沂。紅點。北海道。腸。醃藏。蛇。細微。粘滑

鮒は長さ二三尺よしして細鱗を被る。常は
河海の間において、秋月卵を産むるが爲に

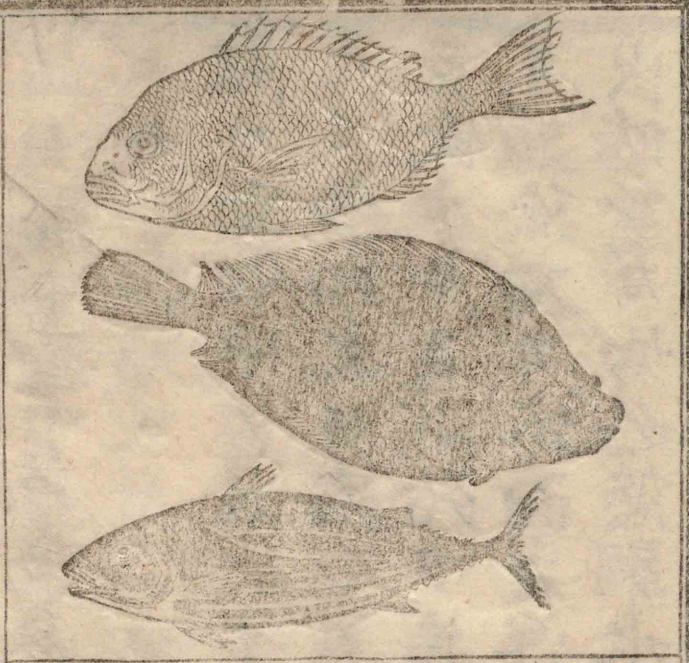
遠く河に沂る。肉ハ赤色よしして美味なり、
其醃ふしとるを鹽引と稱す、卵は大にして
紅點あり、味亦佳なり、北海道の名産と云。
鮎は年々卵生して、清流の河に沂る、長さ尺
二満とず、肉味頗る美あり。其腸及び卵は
醃藏したるものをうるかといふ、人の賞む
る所なり。鰻ハ形長圓にして蛇よしとる。
長さ一二尺、鱗は細微よしして見え難く、全
身極めて粘滑なり。性强健にして、水を離

るハも容易ヨ死むることなし。其肉ハ味
美にして滋養の効あり。

第十六課 鯛、板魚、堅魚。

鯛。板魚。盛饗。祝宴。鯨。及。堅魚節。土佐。薩摩。

海ニ産シテ人ノ食用ニ供スベキ魚類ハ頗
ル多シト雖モ其味ノ美ナルハ鯛、板魚、堅魚
ヲ最トス。鯛ハ身ノ長サ一二尺其色淡紅
白色ナレト死スレバ赤色ニ變ス。其味頗
ル美ニシテ盛饗祝宴等ニ多ク之ヲ用フ。



魚ニテ群ヲナシテ東南海ニ來ル其肉ヲ蒸
シ乾シテ堅魚節ヲ作ル土佐薩摩等ノ名産

板魚ハ形扁クシテ其
ダ鯨ニ似タレト鯨ハ
右片黒クシテ左片白
ク板魚ハ之ニ反ス。
四時共ニアレト春夏
ノ際味尤モ美ナリ。
堅魚ハ圓ク肥エタル

ナリ。

第十七課 鯨。

鯨。湧。雷。巨。濤。潮。驟。雨。素。哺。乳。上。齧。榔。脂。肪。

鯨ハ動物中ノ最大ナルモノニシテ、長サ七丈ヨリ九丈ニ達シ、黒色ニシテ腹白ク、頭ノ巨大ナルコト、殆ド其身ノ三分ノ一二居レリ。徐カニ水面ニ浮ブトキハ、島嶼ノ湧キ出ヅルガ如ク、怒テ水ヲ撃ツトキハ、百千雷

ノ相震フガ如シ、躍ルトキハ、風ナキニ巨濤ヲ起シ、吹テ水ヲ出ストキハ、雲ナキニ驟雨ヲ降セリ、其極メテ大ナルコト以テ想フベシ。鯨ハ其形水中ニ住ムニ適シ、前肢ハ鰭状ヲナシテ、後肢ハ全ク缺ク、尾ハ水平ニ開キテ、亦鰭状ヲナシ、全體酷ダ魚ニ似タレ、此レ素ト海中ニ産スル哺乳動物ニシテ、魚ニアラス。口内ニハ齒ナク、唯鯨鬚ト稱フル角質ニシテ、板状ノモノアリテ、上齧ニ列

生スルコト、恰モ櫛齒ノ如シ、工人之ヲ用ヒ
 テ各種ノ器物ヲ作ル、世ニ鯨細工ト呼ブハ
 是ナリ。皮下脂肪ノ厚層アリ、油ヲ含ムコ
 ト甚ダ多ク、其最モ肥満セル者ハ、之ヲ得ル
 二百斛ニ至ルコトアリトイフ。

第十八課 捕鯨の業

小艇。楫。銛。若干。擲。豫。索。延。任。窺。斃。掉。毀。沈。溺。
 幸。獲。攫。紀。伊。熊。の。浦。肥。前。獵。

捕鯨の業は、毎年四五月の交より始め、七八



月に至りて止む。小
 艇數艘を隊ニ組ミ、艇
 毎ニ船長一人あり、掌
 楫者投銛者若干人を
 載セ、鯨を見テ進む。
 進で適宜の距離に至
 きバ、投銛者先づ力を
 極めて、銛を擲チ、鯨體
 ニ刺ス、鯨は驚きて銛

を帯びとるまゝ、深く海底に沈没す。而る
は銚ふを豫め長索を施したれば、乃ち之を
延べ、鯨の往く所に任せ、再び水面より浮ぶを
窺て、又銚を擲つこと初の如く、斯くて數
回より及べば、鯨は遂に疲勞して斃るゝに至
るあり。然れども傷鯨時に怒て其尾を揮
ひ、船を毀ち沈め、漁夫を溺らすことあり、故
に捕鯨の業は、甚ど危険とす。然れども幸
よ之を捕り獲るときは、一擧より千金の利を

攫むべし。我が國よりの北海道、紀伊、熊の
浦、肥前、平戸、五島等にて多く之を獵は

第十九課 東京

東京。都府。給。皇城。中央。文武。病院。宏壯。縦横。
電信線。架。上野公園。西麓。不忍池。

東京ハ日本第一ノ大都府。天皇陛下ノ宮
室ヲ定メ給フ地ニシテ、皇城其中央ニアリ。
皇城ヲ周リテ、文武ノ官衙列ナリ立テ、其
他學校、病院、製造所等アリ、建築皆宏壯ニシ

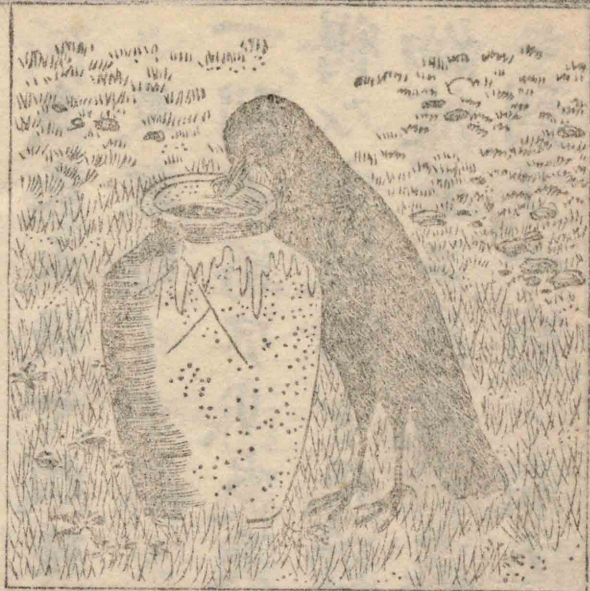
テ美麗ナリ。市街縦横ニ通ジテ、商家櫛ノ
如ク比ビ、車馬行人晝夜織ルガ如シ。電信
線ハ空ニ架シテ、宛モ蛛ノ網ヲ張ルニ似タ
リ、瓦斯燈ハ街ヲ照ラシテ、方ニ夜ヲ知ラザ
ルノ城市トモ稱スベシ。加フルニ大小ノ
河溝通ズルヲ以テ、運送尤モ便ナリ。現今
ハ戸數三十萬餘、人口百萬ニ上リテ、實ニ繁
盛ヲ極ム。卷首ニ畫キタルハ、府下第一ノ
勝地ニシテ、上野公園ト稱スル所ナリ。園

内古松老杉多ク、又櫻樹多シ、其西麓ニ不忍
池アリ、蓮花ヲ以テ著ル。

第二十課 烏ノ話。

烏。炎天。渴。一掬。殘潦。茅舍。嘴。伸。案。煩。工夫。一
策。霎時。

一羽ノ烏アリ、炎天ノ日口甚ダ渴シテ水ヲ
得ント欲スレ氏、近傍ニ一掬ノ殘潦、一條ノ
細流ダニ見ズ。處々徘徊シテ後、茅舍ノ傍
ニ到リ、一箇ノ瓶ノ在ルヲ見出シタリ。然



ヲ絶ツベカラズトシ、良久シク思考シテ、遂
 ニ一策ヲ案ジ出シ、近傍ノ小石ヲ一箇ツ、
 哺之來テ、瓶中ニ投ゲ入レヌ。斯ノ如クス

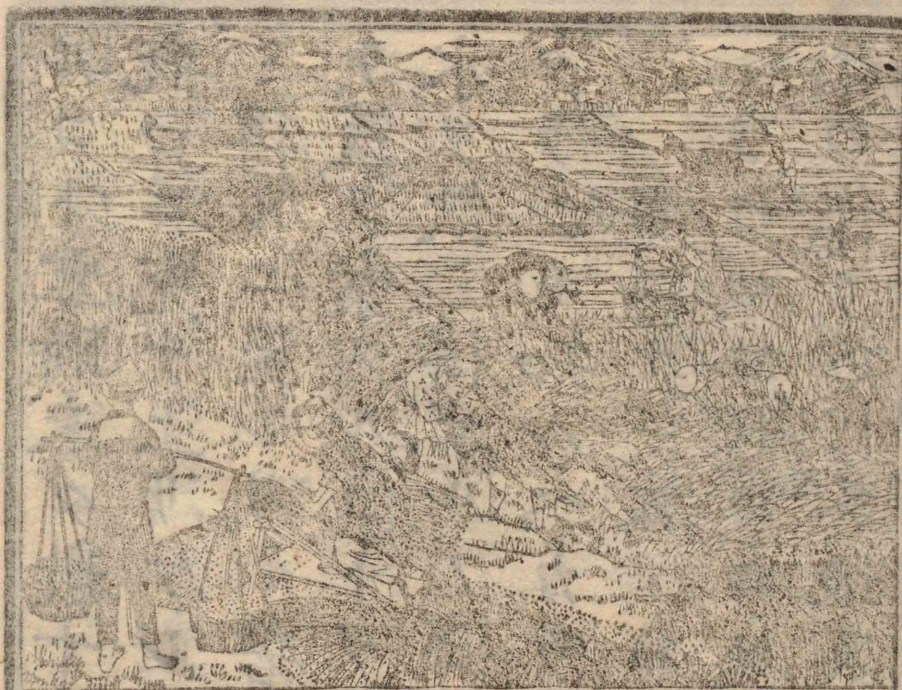
レ氏瓶深ク水少ナクシ
 テ、嘴ヲ伸スモ善ク達ス
 ルコト能ハズ。烏ハ如
 何爲ント案ジ煩ヒシガ、
 別ニ工夫モナカリケリ。
 サレ氏未ダ決シテ望

ルコト霎時未ダ數十箇ナラザルニ、水已ニ
 瓶口ニ充チ上リケレバ、因テ容易ニ水ヲ飲
 ミ得ルニ至レリ。若シ此鳥初メニ絶望シ
 テ、策ヲ案ズルコトヲナサズンバ、決シテ此
 水ヲ飲ミ得ザルノミナラズ、終ニハ渴死シ
 タランモ知ルベカラズ。

第二十一課 稻の作り方。

習慣。姑。苗代。播。挿秧。挺。中空。柔軟。充實。

稻の作り方は、各地其習慣により、固よ異



同ありと雖も、姑く其
 概略を舉ぐまば、先づ
 春種を苗代に播き、長
 じて七八寸に至れば、
 抜きて他の田に分ち
 栽う、之を田植又挿秧
 と云ふ。初めて植る
 たる時の状は、通常此
 草の如し、漸く長むる

に從ひて、數條の莖を挺んず。莖は中空に
 して節あり、節より葉を生じ、葉は莖に巻き
 て細長なり。斯くて初秋の候に至るまば、莖
 の頂より穂を出し、穂に數多の小なる花を
 着け、此花落ちて後、方さに實を結ぶ。此實
 最初の柔軟にして、緑色なれども、晚秋に至
 るまば、漸く充實して黄色に變じ。

第二十二課

前課ノ續

收穫。畦。漲。鎌。更。碓。挽。糶。俵。春。澆。耘。幾。許。農。夫。

粒々。辛苦。輕視。

凡ソ其收穫ノ前秋風
畦ヲ渡ルニ方テハ、稻
穂皆靡テ、滿田宛モ黃
波ヲ漲ラス。既ニシ
テ熟スレバ、鎌ニテ刈
リ收ム、之ヲ稻刈ト云
フ。此刈リタル稻ヲ
更ニ乾シテ、穂ヲコキ



許リナル處ニ埋メ置キタレバ、汝兄弟ニテ
永クコレヲ守リ、決シテ他人ノ手ニ譲リ渡
シナドスベカラズ。サテ兄弟ハ此遺言ヲ
聞キ、退キテ思フヤウ、父ガ寶物ト云ヒシハ、
カ子テ貯ヘ置ケル金子ヲ畑ニ埋メシニ相
違無シト、竊ニ相喜ビ居レリ。後幾程モナ
ク、父没シケレバ、兄弟カヲ合セテ、父ノ遺セ
ル田畑ヲ、隅々マデ鋤キカヘシ索メタレ、
一錢ダモ見出サマリケレバ、兄弟大ニ望ヲ

失へり。サレハ地面ヲ鋤キカヘシタルニ
ヨリテ、其年ノ作物ハ、殊ニヨク實リテ、秋ノ
收穫常ニ倍シ、眞ニ寶物ヲ掘リ得タルニ異
ナラザリシトゾ。コレヲ聞キテモ、守ルベ
キハ親ノ戒ナリ。

第二十四課 砂糖の製造。

砂糖。甘蔗。玉蜀黍。印度。臺灣。莫大。運搬。轉機。
秋。壓搾。碎。扁薄。滴々。篩。泡沫。攪拌。

甘味は五味の一にして、其原ハ専ら砂糖と

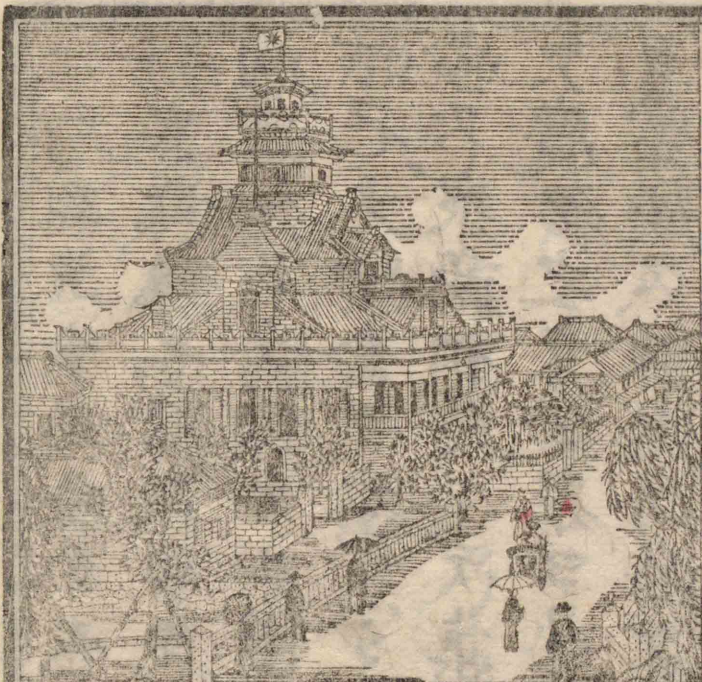
す、實に是れ飲食の佳美を成さむ也なり。
砂糖は、多く甘蔗と名ふる植物より製する
も此より、甘蔗の野生ハ、其狀玉蜀黍に似と
り。元來暖地に産にして、高さ率ね一丈よ
り一丈二尺に至り、時ありてハ二丈に及ぶ。
我が國に於ては、四國九州の地に産する
ども、其量多からざるを以て、毎年印度臺灣
等より輸入すること莫大なり。凡そ甘蔗
を以て砂糖を製するにば、その着花時期

先ち了、之を根邊より刈取り、其葉を去りて
製造場に運搬す。製造場に於てハ、之を大
なる鐵の轉機に挟み、壓搾をせば、莖碎け
て扁薄となること、紙の如し、從て液汁滴々
として流下す。乃ち此液汁は石灰少許を
加へ、大鍋にて熟煮し、銅篩にて泡沫残すく
ひ、斷えず攪拌せるときは、水分ハ蒸散して
終に砂糖を得るなり。

第二十五課 會社ノ營業。

一己。資金。株券。公衆。募。會社。就中。裨益。銀行。
官許。預。之。貸附。沈滯。爲替。謀。融通。

商業極メテ盛ナル國ニ在テハ、富商ト雖モ、
一己ノ資金ヲ本トシ事ヲナサズ、其資金ハ
必ズ衆商相結ンデ集合シ、或ハ株券ヲ發シ
テ、廣ク之ヲ公衆ヨリ募リ、大ニ其業ヲ營ム
ヲ常トス、コレヲ名ケテ會社ト云フ。會社
ニ數種アレド、就中營業ノ大ニシテ、最モ世
間ニ裨益アルモノハ銀行ナリ。銀行ニハ



國立ト私立トノ別アリ、我方國ニ於テ國立
 銀行ヲ建ントスルニハ、五萬圓以上ノ資金
 ヲ備ヘテ、始メテ官許
 ヲ得、今日我方國銀行
 ノ盛ナルハ、日本銀行
 第十五國立銀行、第一
 國立銀行等ナリ。
 凡ソ銀行ノ業ハ、自ラ
 商業ヲ營ム能ハザル

モ人若クハ此等ノ業ヲ執ルニ暗キモノ、
 金ヲ預リ、コレヲ他ノ資金ニ乏シキ營業者
 ニ貸附ケ、有無相通ジテ、世間ニ沈滞ノ資金
 ナカラシメ、或ハ爲替ヲ組ミテ、賣買授受ノ
 煩ヲ省キ、或ハ紙幣ヲ發シテ、貿易ノ便ヲ謀
 ル等、一切金錢融通ノ路ヲ開クモノナリ。

第二十六課 前課ノ續

保險。依頼。約束。少額。金員。承諾。請負。保證。難
 破。厄。慮。遺族。凍餒。悲。郵船。牧畜。經濟。

茲ニ又保險會社ト名クルモノアリ、火災、海上生命等ノ危険ヲ保任スル會社ニシテ、其方先ヅ此等ノ保險ヲ依頼セント欲スル人、其社ニ約束ノ少額金員ヲ投ジ置ケバ、會社ハ萬一ノ危険ヲ保任シテ、其多額ノ損失ヲ辨ズルコトヲ承諾スルモノナリ。故ニ火災ヲ請負ハシムレバ、家ヲ燒クモ、居處ニ迷フノ憂ナク、海上ノ危険ヲ保證セシムルモノハ、難破ノ厄ニ遭フモ、船載ノ貨物ヲ失フ

ノ慮ナク、生命ヲ保任セシムレバ、身死シテ遺族ノ道路ニ凍餒スルノ悲ナシ。故ニ文明諸國ノ人ハ、是等ノ保險會社ニ金ヲ投ズルモノ甚ダ多シト云フ。此他鐵道會社、郵船會社、物産會社、牧畜會社等ノ諸會社アリ、中ニモ鐵道、郵船、通運ノ會社ノ如キハ、海陸ノ運輸ヲ便ニシ、内外ノ貿易ヲ通ズルモノナレバ、一國經濟ノ業ニ關シテ、甚ダ重要ナルモノナリ。

第二十七課 兵士の信義

格闘。銃劔。揮。頓。惻愷。萌。倒。是非。誓。情願。果。慰。首。聊。托。吾。一封。餓死。諾。憾。瞑目。淚。拭。屍。歛。

昔歐羅巴にて、ハンガリー國とオーストリア國と、兵を交へたることあり。時よハンガリーの兵士、オーストリアの一士官に遭ふて格闘し、遂に銃劔を揮て其士官を斃したり。然るに兵士の、頓に惻愷の心を萌し、倒せざる士官を抱き起し、懇まいたはりて

曰く、戦闘は私事よあらば死生固に是非をなきことなり、唯言ひ遺さんと欲まることあらば、吾よ告げよ、吾誓て君の情願を果さんと慰めなまば、士官は首を舉げて曰く、君此義氣に感じ、聊か懇願する一事を托し申さん、吾が囊中よ一封の書あり、こを我吾が家に傳へざれば、一家皆餓死すべし、吾が家ハボヘミア州の一地なる、プレーギューにあり、君幸に之を家人よ傳ふることを諾せ

ば、余死をもも復と憾むる所なすと、終に兵士の一諾を聞て、眠むるが如く瞑目せり。兵士の涙を拭ひ、屍を斂め、其囊中より封書を取り出して、己の陣中へ歸れり。

第二十八課 前課ノ續

蹉跎。營舎。羈旅。起。咽。罪。自首。軍法。照。砲刑。處。自若。神色。放。鄉國。彈丸。連射。絶命。

既ニシテ兩國和ヲ講シ、戦止ムニ及テ、兵士ハ數日ノ暇ヲ其將校ニ乞ヒケレバ、許サレ

ズ。蹉跎前約ニ背カンコトヲ恐レ、遂ニ意ヲ決シテ營舎ヲ脱シ、羈旅ヲ重子、遠ク山河ヲ超エテ、プレーギユーニ至リ、具サニ其狀ヲ告ゲ、書ヲ出シテ之ヲ家人ニ渡シ、カバ家人ハ唯良人ノ死ヲ哀ミ、且ツハ兵士ノ義ヲ感ジ、涙ニ咽ブノ外ナカリシトゾ。斯クテ兵士ハ直チニ歸國シ、脱營ノ罪ヲ自首シケルニ、將軍乃チ之ヲ軍法ニ照シテ、砲刑ニ處セシム。兵士ハ固ヨリ期スル所ナレバ、

刑ニ臨ムモ自若トシテ神色變セズ、刑卒ノ
頓テ砲ヲ把リ、機ヲ放タントスルニ當リ、兵
士ハ徐カニ呼デ曰ク、我方此刑ニ就クハ、固
ト言ヲ履ミ義ヲ全ウセンガ爲メナリ、一身
ノ爲メニハ哀ムベキモ、郷國ノ爲メニハ賀
スベキニアラスヤト、終ニ彈丸連射ノ下ニ
絶命セリ。誠ニ比アルマジキ信義ナリ。

第二十九課

目アル人却テ不自由ナリ。

塙保己一。武藏。兒玉郡。保木野村。彈琴。鍼治。

輒。反覆。翫味。和漢。皇朝。幕府。檢校。

塙保己一ハ、武藏國兒玉郡保木野村出生ノ
人ナリ。七歳ニシテ、兩眼病ノ爲ニ明ヲ失
ヘリ。十五ノ時江戸ニ出デ、彈琴鍼治ヲ
學ベト業成ラズ、己モ亦之ヲ好マザリケリ。
日々ニ古書ヲ學ブコトヲ務メトシ、一冊
ノ書ヲ得レバ、人ニタノミテ之ヲ讀ミ、且ツ
講セシコトヲ請ヒ、其聞シトコロハ、輒チ反
覆自ラ誦讀シ心ニ翫味シテ、遂ニ文字ニ通

ゼリ。更ニ當時ノ名家ニ從ヒテ、博ク和漢ノ學ヲ修メ、殊ニ皇朝ノ故事ニ精ハシ、幕府ニ召サレテ檢校トナリ、其名世ニ著ハル。日第三十課 前課ノ續
 源氏物語、偶、暫、輟、壯年、校訂、編纂、群書類從、部冊、書典。
 或る夏の夜門人を聚め、障子を開き涼を納れながら、源氏物語を講せしに、偶風吹き來りて燈火を滅し、是をば人々暫く講を輟め

明治十九年十一月四日版權免許
 同 年十一月 出版
 同 二十年三月十九日訂正再版御届
 同 年十月三十日訂正三版御届

定價金十錢



編者 出版人

東京府平民 高橋熊太郎
 下谷區竹町一番地
 東京府平民 小林八郎
 日本橋區通旅籠町十一番地

東京日本橋區通旅籠町十一番地 集英堂本店
 枋木縣下宇都宮大工町四十一番地 集英堂第一支店
 大坂東區博夢町四丁目十五番地 集英堂第二支店

發兌

普通讀本

